

平成 24 年度 事 業 報 告

(2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。
 なお、平成 24 年 4 月 1 日に一般社団法人としての登記を行った。

1. 会 員 状 況

会員種別	平成 24 年度			参 考	
	2012. 4. 1 現在数 (A)	2013. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2012. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	21	21	0	21	0
終身会員	114	104	△10	102	2
正 会 員	3,299	3,212	△87	3,259	△47
学生会員	814	840	26	839	1
賛助会員	193 社 (285 口)	194 社 (283 口)	1 社 (△2 口)	191 社 (283 口)	3 社 (0 口)
特殊会員	93 社 (106 口)	91 社 (118 口)	△2 社 (12 口)	93 社 (106 口)	△2 社 (12 口)

2. 定款・規則等の制定・改正

- | | |
|--------------------------|---------------|
| (1) 関西支部規則の改正 | (2012. 5. 21) |
| (2) 会員の入会に関わる規則の制定 | (2012. 9. 19) |
| (3) 会員の退会に関わる規則の制定 | (2012. 9. 19) |
| (4) 会費の納入と会誌の頒布に関わる規則の制定 | (2012. 9. 19) |
| (5) 会員資格の取り扱いに関わる規則の制定 | (2012. 9. 19) |
| (6) 名誉会員の推薦に関する規則の改正 | (2012. 9. 19) |
| (7) 終身会員の推薦に関する規則の制定 | (2012. 9. 19) |
| (8) 学会活動貢献賞選定規則の制定 | (2013. 1. 28) |
| (9) 粟屋潔学術奨励賞受賞予定者選定手続の改正 | (2013. 2. 19) |
| (10) 功績賞受賞予定者選定手続の改正 | (2013. 3. 13) |
| (11) 音響学入門ペディア運営委員会規則の制定 | (2013. 3. 13) |

3. 機 関 誌 の 刊 行

- (1) 日本音響学会誌
 本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

68 巻 4 号～69 巻 3 号 (2012 年 4 月～2013 年 3 月)

巻 号	68 巻										69 巻			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
本文ページ	44	64	40	54	76	46	46	52	54	48	42	64	630	
主 な 論 文	卷頭言									2			2	
	音叉	2			2		2						6	
	論文	17 (2)	19 (2)	11 (1)	20 (2)	10 (1)	6 (1)	12 (1)	11 (1)	21 (1)	17 (2)	9 (1)	10 (1)	163 (17)

記事	技術報告			5 (1)				7 (1)				5 (1)	6 (1)	23 (4)
	寄書													
	特別講演					6 (1)						3 (1)		9 (2)
	解説（小特集を含む）	19 (3)	34 (6)	18 (3)	26 (5)	18 (3)	31 (6)	18 (3)	33 (6)	19 (3)	20 (3)	18 (3)	38 (6)	292 (50)
	会議報告 （シンポジウム報告）									2 (1)				2 (1)
主な論文記事	連載企画	2 (1)		2 (1)		2 (1)		2 (1)		2 (1)				10 (5)
	研究発表会報告					1						1		2
	追悼文							2						2
	選奨記事・紹介記事		1			12								13
	書評											1		1
	研究会発表論文一覧					23								23
	コーヒーブレード	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	68巻総目次									4				4
	AST目次		2		2		2		2		2		2	12
	AST abstract		2		2		2		1		2		3	12
学会記事等	1	3	1	3	1	2		2	3	2	2	2	22	
投稿規定										18			18	
編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
会告	11	35	27	12	19	69	25	27	21	14	59	13	332	
広告	9	11	9	10	10	10	9	12	8	9	10	14	121	
発行部数	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	57600
小特集タイトル		※1		※2		※3		※4		※5		※6		

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 子どもの音声

2 音楽制作を彩る音づくりの技術“エフェクタ”

3 音響管による垂直入射吸音率測定

4 近年の音響信号処理における数理科学の進展

5 証拠による裏付けが求められる音楽療法

6 音響・振動による土木構造物の診断技術

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2012年5月、7月、9月、11月、2013年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

Vol. 33 No. 3～Vol. 34 No. 2 (2012年5月～2013年3月)

Vol.		Vol. 33				Vol. 34		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		79	67	56	70	61	90	423
主な論文・記事	Paper	43 (5)	41 (5)	33 (4)	31 (3)	23 (3)	62 (7)	233 (27)
	Technical Report						5 (1)	5 (1)
	Acoustical Letter	21 (6)	17 (5)	19 (6)	28 (8)	11 (3)	3 (1)	99 (29)
	Foreword						1	1
	Invited Review	12 (2)	6 (1)				18 (3)	7 (1)

Invited Paper						9 (1)	9 (1)
Review					6 (1)		6 (1)
Short Note							
和文誌英文目次	2	2	2	2	2	2	12
和文誌論文等内容梗概	1	1	1	1	1	1	6
Short Essay			1	1			2
Vol. 33 総目次				7			7
Online journal 化							
発行部数	50	50	50	50	50	50	300
小特集タイトル						※	

注) 欄中の () 内数値は編数。

※Special issue on “the speech communication and its related technologies”

- (3) 科学技術振興機構が主催する電子ジャーナル共同利用センター (J-STAGE) のサイト (URL <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ast/-char/en>) で、引き続いて Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。

4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2012年3月13日、14日、15日の3日間、神奈川大学横浜キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1318名である。

なお、学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナー及び新人盛会を開催した。スペシャルセッションは6件、「音声研究におけるネット上の情報基盤の活用」、「医用超音波の新展開」、「サイン音のデザインーメッセージを伝える音を操る術ー」、「原点回帰から将来展望へー生涯教育としての音響教育ー」、「水中音響分野におけるイメージング技術」、「最近の聞こえ支援システム技術とその展開ーその2ー」で実施した。

- (2) 秋季研究発表会は、2012年9月19日、20日、21日の3日間、信州大学長野(工学)キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1133名である。

スペシャルセッションは7件、「音声が何を伝えているか、もう一度考えてみよう」、「聴覚における場所説・時間説再考」、「道路交通騒音の低減に向けて」、「住宅の音環境に関する最近の研究動向」、「原点回帰へー一次世代の音響研究課題の創出へー」、「空中超音波による非接触技術の新展開」、「障害者の教育における音の支援と活用」、「自動車車室内の音環境の快適性をデザインする」で実施した。

- (3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分 野 別		春 季	秋 季
講 演 件 数	音 声 A	100	75
	音 声 B	84	84
	聴覚/聴覚・音声	62	49
	電 気 音 響	120	115
	音 楽 音 響	28	26
	騒 音 ・ 振 動	43	47
	建 築 音 響	37	71
	超音波/水中音響	67	69
	アコースティック・イメージング	23	17
	音 響 教 育	3	6
	音支援 (音バリアフリー)	0	5
	熱音響技術	10	11
	学術委員会「原点回帰」	4	6

	音のデザイン「サイン音のデザインーメッセージを伝える音を操る術ー」	14	
	分野横断 SS「水中音響分野におけるイメージング技術」	3	
	分野横断 SS「近の聞こえ支援システム技術とその展開ーその2ー」	10	
講演件数	音のデザイン「自動車車室内の音環境の快適性をデザインする」		15
	分野横断 SS「空中超音波による非接触技術の新展開」		12
	分野横断 SS「障害者の教育における音の支援と活用」		9
計		608	617

特別講演	演 題	ビッグバン わたしたちの起源は？	みすずかるは長野の意味を解くキーワード
	講 師	神奈川大学教授 三田 一郎 氏	信州善光寺玄證院住職 福島 貴和 氏

(4) 技術動向レビューの実施

今年度から新たに研究発表会での発表に関連するトピックスを選び、その技術動向を体系的に整理した形で紹介する技術動向レビューを実施した。2012年春季は「收音・再生技術の最前線ー放送における收音技術／次世代高臨場感音響再生ー」をテーマに、2012年秋季は「パラメトリックスピーカの基礎と実際」をテーマとして実施した。それぞれ研究発表会開催日の前日に開催した。

5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超音波	橋本 研也	11	120	アコースティックイメージング、音響化学研究会、韓国音響学会との合同開催の分を含む
騒音・振動	尾本 章	10	54	建築音響研究会との合同開催分の含む
電気音響	小野 一穂	9	155	音声、聴覚、音楽音響研究会との合同開催の分を含む
音声	速水 悟	8	151	電気音響、聴覚研究会との合同開催の分を含む
聴覚	鈴木 陽一	9	120	音声、電気音響、音楽音響研究会、音響教育調査研究委員会との合同開催の分を含む
建築音響	田中 学	10	52	騒音・振動研究会との合同開催分を含む
音楽音響	西口 磯春	8	77	聴覚、電気音響研究会との合同開催の分を含む
音響化学	酒井 啓司	1	15	音波の物性と化学討論会（超音波研究会と共催）
アコースティックイメージング	中村健太郎	5	38	超音波研究会との合同開催の分を含む
音響教育	佐藤 史明	1	15	聴覚研究会との合同開催の分を含む
合計		72	842	

- (2) 騒音・振動、聴覚、建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で実施した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

ア. 2012年5月21日から24日の間、早稲田大学国際会議場（東京都）において開催の第19回非線形音響国際シンポジウム（ISNA 19）に共催した。

イ. 2014年6月1日～6月5日に奈良において開催する第10回公衆衛生問題としての騒音に関する国際会議（ICBEN2014）に協力した。

ウ. 2014年9月7日から4日間において開催される第7回 Forum Acusticum（ポーランド共和国クラコウ市）でポーランド音響学会と共催するスペシャルセッションの開催準備のため ASJ-PAS 共同企画実行委員会を設けて準備を行った。

エ. 2016年に米国音響学会とハワイで共催する第5回日米ジョイントミーティングの準備を行った。

- (2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会（ICA）、国際騒音制御工学会（I-INCE）の総会等に出席し、その活動に協力した。また、西太平洋地区音響学会（WESPAC）に協力した。

7. 音響規格の調査・作成

- (1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格（JIS）に関して5年ごとの見直し作業を行った。

- (2) 音響に関する国際規格（ISO/TC 43、同/SC1、同/SC2、同/SC3 及び IEC/TC29 関係）の審議を日本規格協会から委託され、それぞれの専門委員会（橘 秀樹委員長 [ISO]、佐藤宗純委員長 [IEC]）において審議し、結果をとりまとめて報告した。

8. 調査研究委員会の活動

(1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

（株）高速道路総合技術研究所との共同研究により、「道路交通騒音の予測手法及び対策手法の研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会（坂本慎一委員長）が作業を実施し、その成果を報告した。

(2) 音響教育に関する調査研究

音響教育調査研究委員会（佐藤史明委員長）において、音響教育に関する現状の調査研究及び将来の音響教育のあり方等について審議を行った。

(3) 音バリアフリーに関する調査研究

音バリアフリー調査研究委員会（白石君男委員長）において、聴覚障害者のための会話システムの研究、デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。

(4) 音と脳科学に関する調査研究

音と脳科学調査研究委員会（本田 学委員長）において、人と音と脳の関わりについての調査研究を実施した。

(5) 熱音響技術に関する調査研究

熱音響技術調査研究委員会（渡辺好章委員長）において、既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を目的とする調査研究を実施した。

(6) 音のデザインに関する調査研究

音のデザイン調査研究委員会（岩宮眞一郎委員長）において、製品音、サイン音、サウンドスケープ、音環境等の音のデザインについて、包括的に調査研究を行い、音のデザインの必要性、可能性、将来性を発信することを目的とする活動を実施した。

(7) 災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する技術調査研究

災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する技術調査研究委員会（鈴木陽一委員長）

を新たに設置し、防災行政無線子局の屋外拡声システム等に関する調査研究を行った。

9. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第 36 回功績賞受賞者は、柴山秀雄、柳田益造の 2 氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

(2) 佐藤論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌 67 巻 1 号～12 号、68 巻 1 号～12 号並びに AST 誌 Vol. 32 No. 1～No. 6、Vol. 33 No. 1～No. 6 に掲載された論文中から優秀な論文を選び、2013 年春季研究発表会選奨会場(2013 年 3 月 14 日)で本賞を贈呈した。

第 53 回佐藤論文賞受賞論文(敬称略)

- 中村 将志・梶川 嘉延・野村 康雄(関西大)・宮倉 隆志(ホシデン)
「小型音響機器における音孔配置条件が音響特性へ及ぼす影響—音響素子の位置関係や形状を考慮した音響パラメータ推定法—」日本音響学会誌 68 巻 6 号
- 木谷 俊介・宮内 良太・鶴木 祐史(北陸先端大)
「ノッチ雑音同時マスキングデータから推定された聴覚フィルタの同調特性に手がかり音呈示が与える影響」日本音響学会誌 68 巻 11 号

(3) 環境音響研究賞

環境音響学の発展に貢献した、主として建築音響分野又は騒音分野に関連する一連の研究を対象とするもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2013 年春季研究発表会選奨会場(2013 年 3 月 14 日)で本賞を贈呈した。

第 4 回環境音響研究賞受賞者(敬称略)

- 高橋 大弐(京都大学)／豊田 政弘(関西大学)
「建物構造体の遮音性能向上に関する一連の研究」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音声処理に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2013 年春季研究発表会選奨会場(2013 年 3 月 14 日)で本賞を贈呈した。

第 7 回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者(敬称略)

- 大浦 圭一郎(名古屋工業大学)
「HMM 音声合成ツールキットの開発・公開による学術分野・産業分野への貢献」
- 久保 陽太郎(NTT コミュニケーション科学基礎研究所)
「高次元特徴を利用した識別モデルに基づく音声認識に関する研究」

(5) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2012 年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2012 年秋季研究発表会選奨会場(2012 年 9 月 20 日)及び 2013 年春季研究発表会選奨会場(2013 年 3 月 14 日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第 32 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2012 年春季研究発表会、4 名)

- 浅見 太一(NTT サイバースペース研究所*)
「音素誤り傾向に着目したクラスタリングに基づく音響モデルの教師なし適応」
※現 NTT メディアインテリジェンス研究所
- 岡本 拓磨(独立行政法人 情報通信研究機構)
「多チャンネルスピーカアレイによる音響プライバシーエリア形成のマスクに関する検討」
- 奥園 健(大分大学)

「スプライン音響要素を用いた時間領域有限要素法の分散誤差低減」

○竹林 健一（鹿島建設(株)）

「遅延和法を用いた鏡面反射成分抽出の試み」

第 33 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者（敬称略／2012 年秋季研究発表会、5 名）

○上田 麻理（独立行政法人産業技術総合研究所）

「公共空間における高周波音の実態調査」

○篠原 雄介（(株)東芝）

「リーマン部分空間クラスタリングによる共分散行列の回転共有化」

○鈴木 雅之（東京大学）

「音声の構造的表象を用いた大語彙音声認識の識別的リランキング」

○孫 慶華（(株)日立製作所）

「波形接続方式音声合成における複数の統計的手法を用いた素片選択手法の比較」

○宮部 滋樹（筑波大学）

「非同期録音信号の線形位相補償によるブラインド同期と音源分離への応用」

(6) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2012 年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2012 年秋季研究発表会選奨会場(2012 年 9 月 20 日)及び 2013 年春季研究発表会選奨会場(2013 年 3 月 14 日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第 5 回学生優秀発表賞受賞者（敬称略／2012 年春季研究発表会、19 名）

藤井 康寿(豊橋技術科学大学)、蔦岡 拓也(東京工業大学)、金子 泰輔(豊橋技術科学大学)、西 大輝(和歌山大学)、出水田 剛志(北陸先端科学技術大学院大学)、村上 泰樹(広島市立大学)、大塚 翔(東京大学)、赤堀 公平(静岡大学)、平田 将之(奈良先端科学技術大学院大学)、江崎 知(名古屋大学)、杉本 侑哉(筑波大学)、西村 昌浩(京都大学)、湯田坂 卓人(筑波大学)、桜川 夏木(三重大学)、鈴木 航輔(九州大学)、鈴木 雅視(名古屋工業大学)、坪田 遼(同志社大学)、浅見 拓哉(日本大学)、成澤 亮(千葉大学)

第 6 回学生優秀発表賞受賞者（敬称略／2012 年秋季研究発表会、20 名）

西野 大輔(東京工業大学)、真野 翔平(名古屋工業大学)、斉藤 裕之(岩手県立大学)、土井 啓成(奈良先端科学技術大学院大学)、高島 遼一(神戸大学)、山岸 慎平(東京工業大学)、渡丸 嘉菜子(上智大学)、金原 涼美(奈良先端科学技術大学院大学)、大沼 侑司(奈良先端科学技術大学院大学)、大黒 聡士(関西大学)、松井 唯(立命館大学)、トレビーニョ ホルヘ(東北大学)、小泉 悠馬(法政大学)、高橋 憲史(神奈川大学)、李 孝振(東京大学)、松倉 史弥(山梨大学)、和田 有司(東京工業大学)、成島 彰洋(静岡大学)、阿久津真理子(早稲田大学)、房 福明(千葉大学)

(7) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者、賛助会員所属の個人、グループに贈られるもので、公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

第 21 回技術開発賞受賞者（敬称略）

○日本放送協会放送技術研究所／三研マイクロホン株式会社

「後方感度を抑圧した狭角度指向性マイクロホンの開発」

杉本岳大、岩城正和、小野一穂(日本放送協会放送技術研究所)、

岡野充男(日本放送協会技術局)、石井武志、千葉 裕(三研マイクロホン(株))

○大成建設(株)技術センター／エスケー化研株式会社

「セラミック系耐火被覆材を用いた遮音構造」

河原塚透、佐々木晴夫、石田正裕(大成建設(株))、藤原武士、重野誠治(エスケー化研(株))
○ジャパンプローブ株式会社
「非接触・空中伝搬超音波検査装置「NAUT21」」
小倉幸夫、高橋雅和、高橋修、馬場比呂志、桐生啓二、野地正明、柘植延啓、
大平克己(ジャパンプローブ(株))

10. 講習会、講演会及びセミナーの開催

(1) 講習会(敬称略)

事業委員会(坂本慎一委員長)が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

ア. 「強力超音波の基礎と応用」(第120回技術講習会)

期 日 ; 2012年6月11日 会場 ; 全国家電会館

講 師 ; 渡辺裕二(拓殖大学)、神 雅彦(日本工業大学)、中村健太郎(東京工業大学)

受講者数 ; 27名

イ. 「音源定位と音源分離の基礎」(第121回技術講習会)

期 日 ; 2012年6月14日~15日 会場 ; 全国家電会館

講 師 ; 浅野 太(産業技術総合研究所)

受講者数 ; 32名

ウ. 「Praatによる音声加工と知覚実験の実施法」(第122回技術講習会)

期 日 ; 2012年11月1日~2日 会場 ; 全国家電会館

講 師 ; 北原真冬(早稲田大学)、田中邦佳(法政大学)、田嶋圭一(法政大学)

受講者数 ; 43名

エ. 「デジタル信号処理の基礎」(第123回技術講習会)

期 日 ; 2012年11月8日~9日 会場 ; 東京電機大学北千住キャンパス

講 師 ; 金田 豊(東京電機大学)

受講者数 ; 49名

オ. 「音の心理学的測定法講座」(第124回技術講習会)

期 日 ; 2012年11月15日~16日 会場 ; 東京大学生産技術研究所

講 師 ; 難波精一郎(大阪大学名誉教授)、桑野園子(大阪大学名誉教授)、
宮岡 徹(静岡理工科大学)

受講者数 ; 27名

(2) サマーセミナー(敬称略)

ア. 「音響学の基礎と最近のトピックス」(第14回サマーセミナー)

期 日 ; 2012年7月29日~31日 会場 ; 長野県白馬・シェアリゾート

講 師 ; 赤木正人(北陸先端科学技術大学院大学)、荒井隆行(上智大学)、

大内康裕(早稲田大学)、大川茂樹(千葉工業大学)、

岡本拓磨(情報通信研究機構)、木村敏幸(情報通信研究機構)

坂本慎一(東京大学)、須田宇宙(千葉工業大学) 荻木禎史(熊本大学)

中村健太郎(東京工業大学)、曲谷地哲(ソニー)、正木信夫(ATR-Promotions)、

山崎芳男(早稲田大学)

受講者数 ; 62名

(3) ビギナーズセミナー(敬称略)

ビギナーズセミナー実行委員会(大川茂樹委員長)で初学者を対象にビギナーズセミナーを開催した。2012年春季研究発表会では、若手による新人のための講演・講習会をテーマとして、新人盛会と併催して実施した。

11. 出版事業

出版委員会(鈴木陽一委員長)に属する3つの編集委員会、音響テクノロジーシリーズ編集委員会(正木信夫委員長、坂本慎一委員長)、音響入門シリーズ編集委員会(鈴木陽一委員長)、音響サイエンスシリーズ編集委員会(岩宮眞一郎委員長、平原達也委員長)において、それぞれ企画内容について審議し、出版した。なお、平成24年度の発行状況は以下の通りである。

ア. 音響テクノロジーシリーズ

- ・ 改訂 環境騒音・建築音響の測定(音響テクノロジーシリーズ8)(2012/10/26発行)
- ・ オーディオトランスデューサ工学 – マイクロホン、スピーカ、イヤホンの基本と現

- 代技術ー（音響テクノロジーシリーズ 17）（2013/03/18 発行）
- イ．音響入門シリーズ
 - ・音と人間 CD-ROM 付き（音響入門シリーズ A-3）（2013/03/28 発行）
- ウ．音響サイエンスシリーズ
 - ・コンサートホールの科学- 形と音のハーモニー（音響サイエンスシリーズ 6）（2012/06/28 発行）
 - ・音響バブルとソノケミストリー（音響サイエンスシリーズ 7）（2012/11/08 発行）

1 2. 学会電子化推進に関する活動

電子化推進委員会（大鶴 徹委員長）において、Web を利用した各種会員サービスについて検討した。今年度は、研究委員会等のホームページ、メーリングリストの充実を実施した。

1 3. 会勢拡大及び広報に関する活動

- (1) 会勢拡大委員会（金井 浩委員長）において、学会への投稿の増加策等会勢の拡大につながる諸策を検討した。
- (2) 広報委員会（武田一哉委員長）において、メーリングリストを利用した会員へのメールニュースを送付し、会員への迅速な情報伝達を図った。
- (3) 活性化・若手育成委員会（大川茂樹委員長）において、サマーセミナーの実施、学生フォーラムの活動の活性化を図る活動を行った。
- (4) 音響学入門ペディアの作成委員会（大川茂樹委員長）において、音響学に関連する基礎的であるが、難解な原理、事象について体験的に理解した過程等を解説的に説明する音響学入門ペディアの作成事業を実施した。

1 4. 財政改善に関する活動

財政改善委員会（中村健太郎委員長）において、賛助会員のメリットの整理・追加を行い、入会の勧誘を行った。また、広告出稿企業の増加策について検討した。

1 5. 通常総会の開催

第 46 回通常総会は、2012 年 5 月 21 日、東工大蔵前会館において開催した。なお、出席者は、123 名（うち委任状による出席 83 名）であった。

1 6. 理事会、役員会並びに委員会活動

- (1) 理事会
平成 24 年度理事会は、2012 年 4 月、5 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月、2013 年 1 月、2 月、3 月の 10 回開催した。
- (2) 役員会
平成 24 年度役員会は、2012 年 8 月を除く毎月、計 11 回開催した。
- (3) 企画委員会
平成 24 年度企画委員会（守谷健弘委員長）は、毎月、計 12 回開催した。
- (4) 編集委員会
平成 24 年度編集委員会（伊藤彰則委員長）は、2012 年 5 月、7 月、9 月、11 月、2013 年 1 月及び 3 月の計 6 回開催した。
- (5) 学術委員会
平成 24 年度学術委員会（渡辺好章委員長）は、2012 年 7 月、9 月、12 月、2013 年 3 月の 4 回開催した。
- (6) 財政改善委員会
平成 24 年度財政改善委員会（中村健太郎委員長）は、2012 年 8 月に企画委員会と共催した。

(7) 研究発表会準備委員会

平成 24 年度研究発表会準備委員会(小澤賢司委員長)は、2012 年 7 月、9 月、12 月、2013 年 3 月の 4 回開催した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、7 月、12 月の 2 回開催した。

17. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	3 件	(一社)日本機械学会ほか
協 賛	39 件	(公社)計測自動制御学会ほか
計	42 件	

18. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	平成 24 年度			参 考	
	2012. 4. 1 現在数(A)	2013. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2012. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	5	6	1	5	1
終身会員	10	10	0	9	1
正 会 員	528	519	△9	519	0
学生会員	155	165	10	161	4

(2) 東北支部

会員種別	平成 24 年度			参 考	
	2012. 4. 1 現在数(A)	2013. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2012. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	3	3	0	3	0
終身会員	6	5	△1	5	0
正 会 員	151	146	△5	150	△4
学生会員	52	55	3	54	1

(3) 東海支部

会員種別	平成 24 年度			参 考	
	2012. 4. 1 現在数(A)	2013. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2012. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	10	9	△1	7	2
正 会 員	291	282	△9	289	△7
学生会員	75	78	3	78	0

(4) 九州支部

会員種別	平成 24 年度			参 考	
	2012. 4. 1 現在数(A)	2013. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2012. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	6	5	△1	4	1
正 会 員	171	165	△6	172	△7
学生会員	59	54	△5	61	△7

(5) 北陸支部

会員種別	平成 24 年度			参 考	
	2012. 4. 1	2013. 3. 31	年度内の増減	2012. 3. 31	前年度末との

	現在数(A)	現在数(B)	(B-A)	現在数(C)	対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	1	1	0	1	0
正会員	68	64	△4	68	△4
学生会員	44	46	2	44	2

19. 支部の事業

(1) 関西支部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2012年4月、7月、10月、12月、2013年1月、3月の6回開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	24. 4. 20	キャンパスポート大阪	2011年度事業報告・決算報告 2012年度事業計画・予算書 出席者 179名(うち委任状 155) / 定足数 112名
見学会	24. 4. 20	(株)竹中工務店中之島 フェスティバルタワー 作業所	フェスティバルホール施工状況の 見学 参加者 57名
建築音響研究会	24. 4. 20	キャンパスポート大阪	発表件数 3件 参加者 21名
電気音響研究会	24. 5. 24 ～ 25	大阪大学中之島センター	発表件数 32件 参加者(のべ) 123名
聴覚研究会	24. 5. 25 ～ 26	同志社大学京田辺キャン パス	発表件数 17件 参加者(のべ) 128名
超音波研究会	24. 7. 26 ～ 27	京都電子工業(株)	発表件数 15件 参加者(のべ) 72名
建築音響研究会	24. 7. 31	キャンパスポート京都	発表件数 7件 参加者 27名
見学会・講演会	24. 10. 18	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター	センター内見学、防災に関する講 演会 参加者 31名
動物音響談話会	24. 11. 10	同志社大学	講演 3件、 参加者 31名
第15回若手研究者 交流研究発表会	24. 12. 9	産業技術総合研究所関 西センター	発表件数 48件 参加者 100名 講演会、ポスターセッション、懇 親会
超音波研究会・電気音響 研究会(併催)	25. 1. 24 ～ 25	同志社大学室町キャン パス	発表件数 15件、参加者(のべ) 61 名(超音波)、参加者(のべ) 39名(電 気音響)
音声研究会	25. 1. 30 ～ 31	同志社大学京田辺キャン パス	発表件数 17件 参加者(のべ) 69名
建築音響研究会	25. 3. 8	キャンパスポート大阪	発表件数 3件 参加者 45名

(2) 東北支部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2013年2月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
-------	-----	-----	-----------

支部総会	24. 4. 17	東北大学工学部	
第 1107 回学術講演会	24. 4. 18	東北大学工学部	「興味深い圧電デバイスの研究に携わって」 講師 広瀬精二 氏(山形大学) 来聴者 250 名
音声研究会	24. 7. 19 ～ 21	天童温泉滝の湯	
電気音響研究会・聴覚研究会	24. 8. 1 ～ 2	東北学院大学	
電気関係学会東北支部 連合大会	24. 8. 30 ～ 31	秋田県立大学本庄キャンパス	発表件数 261 件 参加者 503 名 (のべ) 特別講演「角館武家屋敷と樺細工の歴史と伝承」 講師：中田達男 氏(角館樺細工伝承館館長) 来聴者 120 名
超音波研究会	24. 9. 24	秋田大学手形キャンパス	
東北大学電気通信研究所一般公開 2012(後援)	24. 10. 6 ～ 7	東北大学電気通信研究所	来聴者 812 名
聴覚研究会	24. 10. 13 ～ 14	岩手県立大学	
音声研究会	24. 11. 8 ～ 9	東北工業大学一番町ロビー	
アコースティックイメージング研究会	24. 12. 13	東北大学青葉山キャンパス	
平成 25 年東北地区若手研究者研究発表会(共催)	25. 3. 1	東北工業大学八木山キャンパス	「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」

ウ. 若手研究者優秀論文賞受賞者

東北支部が主催又は共催した若手研究者発表会、電気関係学会支部連合大会における若手研究者を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 1 名であった。

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2012 年 4 月、12 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会・講演会	24. 4. 2	名古屋工業大学	出席者 18 名 参加者 21 名(講演会)
騒音・振動研究会(後援)	24. 5. 25	名城大学天白キャンパス	参加者 22 名 講演件数 5 件
東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会(後援)	24. 8. 4	名古屋大学	参加者 161 名 講演件数 59 件
電気関係学会東海支部連合大会	24. 9. 24 ～ 25	豊橋技術科学大学	一般講演 649 件 (音響関係 14 件) シンポジウム 3 テーマ 参加者 1107 名
支部技術講習会	24. 11. 7	愛知工業大学本山キャンパス	参加者 26 名 講演 4 件
聴覚研究会(後援)	24. 11. 22 ～ 23	豊橋技術科学大学	参加者 (のべ) 61 名 講演軒数 15 件
建築音響、騒音・振動関連若手研究発表会	24. 11. 24	愛知工業大学本山キャンパス	参加者 15 名 講演 6 件

2012年度学生表彰式・祝賀会	24. 12. 12	ルブラ王山	出席者 20 名 (うち表彰学生 7 名)
電子情報通信学会平成 24 年度専門講習会(協賛)	25. 1. 9	ウインクあいち	参加者 51 名 講演 5 件
見学会	25. 1. 14	名古屋市科学館	参加者 34 名 講演 1 件
音声研究会(後援)	25. 2. 28 ～ 3. 1	大同大学	参加者 (のべ) 91 名 講演件数 17 件

(4) 九州支部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2012年3月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
電気関係学会九州支部連合大会	24. 9. 24 ～ 25	長崎大学	講演申込 575 件 (うち音響・音声部門 16 件)
音楽音響研究会	24. 10. 13	九州大学大橋キャンパス	
騒音・振動研究会	24. 11. 16	熊本大学	
電気音響研究会	24. 11. 16 ～ 17	大分大学	
聴覚研究会	24. 12. 15 ～ 16	門司海員会館	
嶺南九州音響学会議 2013	25. 1. 26	Korea Maritime University	特別講演 2 件 口頭発表 24 件(日 12 件、韓 12 件) ポスター発表 16 件(日 5 件、韓 11 件) 計 42 件
建築音響研究会	25. 2. 20	九州大学大橋キャンパス	
騒音・振動研究会	25. 3. 18	沖縄産業支援センター	
支部総会	25. 3. 30	九州大学大橋キャンパス	出席者 91 名(うち委任状提出者 68 名)

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会、研究会等における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 5 名であった。

(5) 北陸支部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2012年4月、5月、9月、2013年1月、2月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	24. 4. 14	金沢大サテライト・プラザ	出席者 33 名 (うち委任状提出者 12 名)
騒音・振動研究会	24. 8. 31	石川県立美術館	講演 5 件 参加者 12 名
電気関係学会北陸支部連合大会	24. 9. 1 ～ 2	富山県立大学	音波・音響関係部門 招待講演 1 件 一般講演 11 件 優秀論文発表賞 3 件

超音波研究会	24. 10. 22	金沢工業大学	講演 6 件 参加者 20 名
電気音響研究会	24. 10. 27 ～ 28	富山市牛岳温泉リゾート	講演 16 件 (招待講演 2 件) 参加者 50 名
第 1 回北陸合同音響セミナー in 福井 ーオトでエンタメー	24. 11 4	福井まちなか文化施設 響きのホール	講演会 市橋政信氏 (テクニカフクイ)、山田真司氏 (金沢工業大学)、森川博由氏 (福井大学) 演奏会 分山貴美子氏 (口笛奏者) 参加者 80 名
音楽音響研究会	24. 12. 8	金沢工業大学	講演 4 件 参加者 30 名
北陸地区学生による研究発表会	25. 3. 9	福井工業高等専門学校	音波・音響関係 講演 12 件

ウ. 表彰

- ・平成 25 年 2 月、金沢大学サテライトプラザにおいて優秀学生賞 9 名を決定した。

事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。